

# 浦臼町非核平和の町宣言（素案）

## 宣言趣旨

世界では未だに地域紛争が絶えず、特に私たちの住むアジア地域においては大国間の勢力争いや特定国の軍備拡張、威嚇行為が続き緊張はますます高まっています。人々の平和への願いとは逆行するように、大量破壊兵器が人類の生存に大きな脅威を与え続けているのが現実です。また、高レベル放射性廃棄物の最終処分については、昨年社会に一石を投じる大きな問題となりました。国民として誰もが避けて通れぬ問題ですが、「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例」で明確に「受け入れ難いことを宣言する」と規定されていること、内陸部に位置する地理的な条件、さらに断層帯の存在が明らかであり、感情論ではなく具体的な複数の理由により、受け入れの拒否を宣言文に盛り込むことにいたしました。

浦臼町は、昭和35年9月1日に町政を施行してから開町60周年を迎えました。この大きな節目を契機として、世界平和と安心安全な暮らしに対する自治体としての決意を示し、町民の皆さんの意識の高揚を図ることを目的として、「非核平和の町」宣言を令和3年浦臼町議会第1回定例会への提案を目指します。

## 「非核平和の町」宣言

世界の恒久平和は人類共通の願いであります。

しかし、世界各地では核兵器による軍備拡張が依然として続けられ、人類はその脅威にさらされています。さらに、東日本大震災における原子力発電所の事故により安全神話が崩れた今、身近に存在する核の不安にも直面しています。

世界で唯一の被爆国として再び痛ましい惨禍を繰り返さないためにも、私たちは非核三原則の堅持を強く訴え、核兵器の廃絶と戦争のない平和な社会の実現を目指していかなくてはなりません。加えて高レベル放射性廃棄物の持ち込みなど、町民が安心して暮らせる環境の崩壊につながる可能性のある行為を決して認めず、緑豊かな樺戸連峰と生命（いのち）の恵みを育む石狩川に抱かれた郷土の大地と町民の生活を守り、未来を担う子どもたちに自信を持って引き継ぐため、ここに「非核平和の町」を宣言します。